

FY2025_2Q

DISCO's Tidbits

2025.11

将来の見通しに関する注意事項

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

将来の見通しについて

このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

本資料の利用について

プレゼンテーション資料に記載されている情報の著作権は当社に帰属しており、無断での転載は禁じられています。本資料は各国の法律によって明示的に認められる範囲を超えて資料を使用・引用する場合、当社の文書等による承諾が必要です。

<https://www.disco.co.jp/>

➤ **特定顧客に関わるご質問は回答出来かねます**

特定顧客の製造プロセスや生産キャパシティ、引き合い・投資動向など、個別企業の生産秘密情報が推測可能なご質問は回答出来かねます。

半導体メーカー各社によって技術・製造プロセスが異なる場合があります、それらは各社の生産秘密情報にあたります。特定顧客からの注文状況、装置仕様やスループットなどは原則として回答いたしません。

➤ **市況認識は決算発表時の見通しを基準として回答します**

期中に市況認識の回答・コメントの変更は行いません。
(適時開示事項を除きます)

- ✓ 装置出荷は四半期ごとに波があるものの、景況感に大きな変化はない
- ✓ 生成AI向けは最終需要等に連動して装置出荷が継続
 - ・メーカ各社で投資タイミングに差が見られる（詳細は非開示）
- ✓ 精密加工ツールの出荷は高水準にあり、追加投資の動向を注視
 - ・量産用途向けの顧客設備稼働率は上昇基調
 - ・汎用メモリは市況が改善傾向
- ✓ 先端パッケージ技術は、今後の用途拡大および本格立ち上がり期待
現時点ではR&D・小規模量産フェーズが多く、出荷額は限定的
- ✓ 日本・中国・韓国などで競合が存在するが、競争環境に大きな変化はない

1. 後工程ビジネスにおける特性

半導体メーカーでは、パッケージ案件の受託可否が直前まで不透明な場合が多く、サプライヤへの発注は直前まで行われない傾向にある。

一方で、案件を受託した場合には速やかに量産ラインを立ち上げる必要があるため、サプライヤに対して装置の希望納期や台数を事前に口頭で共有することがある。これを「引き合い」と呼ぶ。

2. 半導体メーカーからの引き合いの変動要因

- ・ 半導体メーカー間での受注競争状況
- ・ 最終製品の需要見通しに伴う必要台数の変動
- ・ 顧客の生産プロセスにおける状況

これらを含む様々な要因により、引き合いは週単位で変動することがある。

引き合い段階で示される希望納期や台数は流動的であり、確定に至らないケースが多い。

3. 受注から出荷までのリードタイム

発注書を受領した時点では、顧客希望納期まで1～2か月程度に迫っていることが多い。

装置出荷までのリードタイムが短いため、当社では引き合い段階から装置製造に着手し、発注書受領後に速やかに出荷対応を行っている。

顧客の事業環境、最終需要との連動性、業界特有の商慣習などを踏まえ、引き合い・受注・出荷までの各フェーズには様々な変動要因が存在する。こうした背景から需要予測が困難なため、当社では変化への対応力の強化、すなわち会社を強くすることで、中長期視点での企業価値の向上を図っている。

【出荷】装置全体での構成比

実績 予測

		FY24				FY25		
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
顧客分類	OSAT	30%弱	30%	20%	20%強	30%	30%弱	25%
用途分類	Memory ※	30%強	35%	30%強	25%	40%強	40%弱	20%
	Power	20%	20%	15%	15%	10%弱	10%弱	10%

※生成AI関連含む

- ✓ 生成AI向け実績：FY24出荷 550億円程度
 - ・ 地域や製品、四半期推移など詳細内訳は非開示

- ✓ 後工程は投資計画を見通し難く、出荷直前まで注文が確定しないため流動的
 - ・ 生成AIの最終需要動向・見通しの変化で投資計画は変動
 - ・ 半導体メーカーにおけるシェアの状況により投資意欲は変化
 - ・ 能力増強や技術動向などメーカー毎に設備投資の内容は異なる

- ✓ 見通し金額は非開示
 - ・ 上記の各種要因から先々の需要見極めは困難
 - ・ 詳細は特定顧客の設備投資状況に関連する情報のため非開示

- **GPM** 10-12月期想定
QoQ1.5pの低下で計画を策定（想定為替レートUSD145円）
前年度（FY24）の傾向を参照して計画を策定
装置は個別案件毎の精緻な利益計画は算出していない
消耗品は出荷数量増を踏まえ足元の収益性を計画に反映
- **販売管理費** 10-12月期想定：約300億円
四半期の出荷額に連動するが賞与引当のタイミングで若干下期に偏る

販売管理費の基本的な考え方

1. 販売管理費の大半は人件費（研究開発費の人件費を含む）
2. 業績連動による賞与引当により大きく増減
3. 概ね出荷額に連動するため四半期ではブレることもある

■ CAPEX（前回7月から変更無し）

FY24実績 : 698億円 R&D用不動産取得（約500億円）

FY25見通し：約330億円 羽田R&Dセンター新棟や郷原工場の着工

参考：[広島事業所 郷原工場の建築を決定（2025/4/18）](#)

■ DEP 前回7月見通しから約10億円増額

FY24実績 : 121億円

FY25見通し：約140億円 R&D用不動産取得に伴う増加は年間約10億円

■ R&D 前回7月見通しから約10億円増額

FY24実績 : 316億円

FY25見通し：約340億円 積極的なR&Dを継続

**当社ではMissionの実現性の向上に取り組むことで、
結果として企業価値の向上と競争力向上に繋がり、
資本市場の皆さまの期待に応えることができると考えています**

- ✓ 事業の質の追求
- ✓ 自己資金の活用と目的
- ✓ 株主還元方針
- ✓ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

上記の考え方について[詳しくはこちら](#)をご確認ください

本資料について

掲載内容に関しては細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や第三者によるデータの改ざん等に関し、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本資料は投資勧誘を目的にしたものではありません。投資はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

表記について

年間の会計期間である4月～翌年3月までをFY（Fiscal Year）と表記し、四半期の会計期間は4-6月を1Q、7-9月を2Q、10-12月を3Q、1-3月を4Qと表記しています。

金額単位に応じて、単位未満の金額を四捨五入または切り捨て処理しており合計値が合わない場合があります。

%は実際の金額を基に算出しています。

将来の見通しに関する注意事項

この資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。実際の業績はさまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。

英語圏の方々のために英語資料を提供する場合、和文（原文）と英訳の内容が相違した際は和文の内容が優先されます。

本資料の著作権は当社に帰属しており、無断での転載は禁じられています。私的使用その他法律によって明示的に認められる範囲を超えて、本資料を使用（複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、ライセンス、販売、出版等を含む）するためには、当社の事前の明示の許諾が必要です。

<https://www.disco.co.jp/>